「働く」に触れる　－中学生職場体験記－

10月6日から8日まで、有和中学校の2年生が、市内の事業者などの協力を得て職場体験を行いました。

有田市役所での3日目は、経営企画課で広報紙の記事作成を体験しました。インタビューのコツを学んだ後、質問を考え、体験した仕事についてお互いにインタビューに挑戦。また、一眼レフカメラに初めて触れ、写真撮影も行いました。

伝えたいことを言葉にする難しさに戸惑いながらも、過去の広報紙を参考にしたり、追加の質問で話を深掘りしたりするなど、真剣に取り組む姿が見られました。

以下の記事は、職場体験で生徒たちが自ら取材し、記事にまとめたものです。



記者
上野山（うえのやま） 龍人（りゅうと） さん



未来へつながる職場体験

有和中学校２年生が「総合的な学習の時間」の中で、自分の将来を見つめ進路を考えていく機会として、職場体験を実施しました。

市役所ふるさと創生室では、事業所に行って PR 用の写真撮影をして、SNS に投稿する文章を作っていました。体験した福井さんは「SNSをあまり使ったことがないが、過去の投稿を参考にすることで自分にもできて楽しかった」と話してくれました。



記者
福井（ふくい） 暖翔（はると） さん



みんなの知らない裏舞台

10 月に有和中学校 2 年生による「職場体験」が行われました。４名の中学生は、市民会館や MifroM（みふろむ）のほか、事業所など、様々な場所を見学・体験しました。

体験した石井さんは「市役所は人々のために様々な取組をしていることが分かった。紀文ホールの裏側や照明等を調整する部屋を見学できておもしろかった」と話し、普段できないことができたことに対し、興味が湧いていた様子でした。



記者
石井（いしい） 青羽（あおば） さん



盛りだくさんな３日間

有和中学校の２年生が３日間の職場体験を行いました。

２日目の図書館での体験では、本の貸し借りや配架を頑張っていました。体験した上野山さんは「本の整理をするのが楽しかった。本の番号の意味を知ることができて勉強になった」と話してくれました。

貴重な体験は、生徒たちにとって働くことの意義や喜びを学ぶ大変有意義な機会となりました。

職員からのメッセージ

職場体験を通して、働くことの大変さや楽しさを感じてもらえたでしょうか。
今回の経験を、これからの学校生活や将来を考えるきっかけにしてもらえたらうれしいです。

第34回有田市文化賞

この賞は、本市の文化の発展に貢献したと認められる個人または団体に対し、その功績をたたえて市長が表彰するもので、本市における地域文化の向上と振興を図ることを目的に平成５年に制定されました。今回で 34 回目の表彰となります。

11 月 10 日（火）に表彰式を行い、次の方々を表彰しましたので、ご紹介します。

文化功労賞



山﨑（やまさき）　哲一（てつかず） 氏

長年にわたり、郷土に残る文化財や歴史資料の保存及び継承に尽力し、本市の文化財保護に大きく貢献してきた。現在も有田市文化財保護審議会委員として文化財の保護に携わり、郷土の歴史と文化を次代へ伝える活動を続けている。

さらに、保管していた須恵器や漁具などを市に寄贈しており、これらの資料は現在、郷土資料館に常設展示され、地域の歴史を伝える資料として活用されている。

平成2年、同じ志を持つ仲間とともに「有田みちくさクラブ」を発足し、案内看板の設置や手作りの地図作成などを通じて、市内外から訪れる人々に有田市の歴史や文化を広く紹介してきた。

さらに、平成元年から所属していた「わかやま絵本の会」では、「有田みかんと紀伊国屋文左衛門」や「いっしょ（・・）に歩こう 熊野古道（くまのこどう）」などの編纂（へんさん）に参加し、有田の歴史を後世に伝えることにも力を注いできた。



「歴史や文化財は誰かが残していかなければ、いずれ消えてしまい、忘れられてしまう。有田市にある歴史や文化が失われてしまわないように残していきたい」との思いのもと、郷土の歴史と文化に深い関心と探究心をもって向き合い、資料の保存と活用、その普及と継承に取り組んできた歩みは、有田市の文化財保護及び郷土歴史・文化の継承に大きく寄与している。





文化奨励賞



生駒（いこま）　ノリヨ（のりよ） 氏

華道は古遠州流、茶道は表千家に精通している。

華道においては、21歳から代稽古を始め、24歳で師範を取得した。

花本来の姿を生かすことを大切にし、季節の草花をはじめ、自ら育てた植物を取り入れるなど、豊かな感性を生かした創作活動を続けている。

また、箕島駅構内の展示スペースでは、ボランティアとして持ち回りで花を生け、駅を訪れる方々に日常の中で華道に親しむ機会を提供している。

茶道においては、礼儀作法や相手を敬う心を日常生活でも実践するとともに、後進の指導に当たっては、技術の習得にとどまらず、物事を継続することの大切さを伝えている。

これまで華道・茶道において指導した生徒は、１００名を超えている。

長年の活動を通じて培われた師、友人、弟子との深い絆は、文化祭をはじめとする地域活動における協力にも結び付いている。

さらに、茶道・華道を通じて身につけた知識や技術、そして人とのつながりを「自分の宝物」と語る。

長年培ってきた技術や礼儀作法を礎に茶道・華道の普及と後進の育成に努めるとともに、地域文化の振興と伝統文化の継承に長きにわたり貢献している。



